

第60回
長岡市民音楽祭

第
九

令和6年 11月17日 日

長岡市立劇場 大ホール

開場 12:45 開演 13:30 (終演予定 16:00)

主催：長岡市民音楽祭実行委員会

共催：長岡市／(公財)長岡市芸術文化振興財団／長岡市音楽文化協会

後援：長岡市教育委員会／朝日新聞新潟総局／毎日新聞新潟支局／新潟日報社／読売新聞新潟支局／長岡新聞社／栃尾タイムス社／NHK新潟放送局

BSN新潟放送／NST 新潟総合テレビ／TeNYテレビ新潟／UX新潟テレビ21／NCT／FM新潟 77.5／FMながおか 80.7

ごあいさつ

長岡市長 **磯田 達伸**

記念すべき第60回長岡市民音楽祭が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。毎年、魅力的なテーマを取り上げて音楽祭を企画し、長きにわたり伝統ある音楽祭を今日までつなげてきた実行委員会の皆様に、深く感謝申し上げます。

今回の市民音楽祭は、歓喜の歌として今もなお世界中で親しまれているベートーヴェンの傑作「第九」をテーマとし、10年ぶりに演奏されます。市民の皆さんが本番に向け、約半年間、プロの指導者のもと練習を積まれてきたことは、まさに「市民力」の結晶であり、大変うれしく、そして誇らしく思います。

また、今年8月には、アフィニス夏の音楽祭で培った、市民の音楽活動に対する機運の高まりを次世代につなげていく取り組みとして、新たに「Nagaoka Summer Music Fes.」が開催されました。「子どもたちに音楽に触れる機会を与えたい」「難しい印象があるクラシック音楽を気軽に楽しんでもらいたい」という強い思いから誕生し、会場は子どもたちの元気いっばいな笑い声と輝く笑顔に包まれました。

今年の音楽祭も、出演者の皆様の多彩な演奏により、いきいきとした輝く笑顔と感動を来場者の皆様に届けてくれると確信しております。

結びに、本音楽祭を通じて、皆様が豊かな時間を過ごされ、交流が深まることを期待するとともに、長岡市の音楽文化がさらに発展し、未来へとつながっていくことを祈念申し上げ、あいさつといたします。

長岡市民音楽祭実行委員会 委員長 **丸山 幸夫**

本日は、第60回長岡市民音楽祭「第九」において頂きまして誠にありがとうございます。第九演奏会は2014年（第51回）以来ですので10年振りに公募による「第九」が実現いたしました。

私事で恐縮ですが、私がコーラスを最初に歌ったのは、1976年長岡市立劇場での「第九」でしたので、48年もの長い間コーラスに係わってこられた事に感謝したいと思います。

今回の「第九」は地元にご協力、指揮者、ソリスト、オーケストラ、コーラスすべてを地元の方々をお願い致しました。

2020年の新型コロナウイルス感染症の発生で、コーラスはとて大きな試練を受けました。間隔を空けての練習や、マスクを付けての練習は想像以上に大変なものでした。また、多くの合唱団が、合唱団員の減少などで思うようなハーモニーを作るのにも苦労の連続でした。

今年3月に亡くなられた長岡市音楽文化協会顧問の石坂貢治さんが、日頃提唱されていた「合唱の街 長岡」を復活させるべく、精一杯歌いますので最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

第60回 長岡市民音楽祭実行委員会

実行委員長／丸山幸夫

事務局長・広報・会計／片野大輔

監事／池田聡子・佐藤晶子

副実行委員長／江口義則・佐藤晶子・村山信行

企画部長／星野勝彦

委員／茨木理恵・金子珠の・小山 陸・味方和子

プログラム

弦楽講座受講生 / 指揮：星野勝彦

アイネ・クライネ・ナハトムジーク W.A.モーツァルト／作曲

第1楽章 Allegro

第2楽章 Romaza

第3楽章 Minuetto

第4楽章 Rondo

フルート講座受講生

グリーンスリーブス イギリス民謡

小さい秋みつけた 中田喜直／作曲

ふるさと 岡野貞一／作曲

天国と地獄 J.オッフエンバック／作曲



—— 休憩 ——

交響曲第9番 二短調「合唱付き」作品125

L.v.ベートーヴェン／作曲

【演奏】指揮：星野勝彦

コンサートマスター：大関博明

ソプラノ：鈴木愛美

テノール：洞口 圭

管弦楽：長岡第九オーケストラ2024

全体合唱指導：上野正人

アルト：中森千春

バリトン：上野正人

合唱：長岡第九コーラス2024

第1楽章 Allegro ma non troppo,
un poco maestoso

第2楽章 Molto vivace

第3楽章 Adagio molto e cantabile

第4楽章 Presto

🎵 曲目解説 🎵

string アイネ・クライネ・ナハトムジーク / W.A.モーツァルト music Wolfgang Amadeus Mozart 《Eine kleine Nachtmusik》K.525

1787年にウィーンで作曲されたこの作品は、日本語で「小夜曲」と訳され、非常にポピュラーで親しみやすい曲として知られている。セレナーデの印象を醸し出しており、娯楽音楽の性格を感じさせる。

第1楽章 Allegro (ソナタ形式) ユニゾンによって奏されるテーマはあまりにも有名。

第2楽章 Romanza (三部形式) 甘美なテーマと緊張感あふれる断片の対比が魅力的。

第3楽章 Minuetto (3拍子の舞曲) 華やかで活気のある旋律。中間部は流麗。

第4楽章 Rondo (ロンド形式) 軽やかなテーマが変化を加えつつ何度も登場する。

flute グリーンスリーブス / イギリス民謡

エリザベス朝時代(16世紀後半)に歌われていたイングランドの古い民謡。イングランドとスコットランドの国境付近の地域で生まれたといわれている。メロディは2種類あるといわれ、歌詞も時代や地域ごとに種々のバージョンがある。歌詞の内容は、男性からつれない女性に対する失恋の恨み言といわれたり、「グリーンスリーブス」はある女性の名前、娼婦を指すといった諸説があり、謎の多い名曲である。1962年の映画「西部開拓史」の挿入歌となったほか、ビートルズ『愛こそはすべて』でも引用されている。

小さい秋みつけた / 中田喜直

中田喜直氏は「めだかの学校」「夏の思い出」などの名曲を残した日本を代表する作曲家。1955年11月3日、NHK放送芸能祭「秋の祭典」にて発表。第4回日本レコード大賞(1962年)童謡賞を受賞。2007年には日本の歌百選に選出され、現在でも秋を代表する楽曲の一つとして親しまれている。

ふるさと / 岡野貞一

岡野貞一は、明治時代後期の作曲家。明治11年に鳥取県で生まれ、7歳に父を亡くし、岡山の姉のもとでキリスト教系の学校に通い音楽の基礎を学んだ。18歳で東京音楽学校に入塾し、卒業後はこの学校で教えながら、文部省唱歌の作曲委員を務めた。高野辰之と共作した「日のまる」「春がきた」「もみじ」「ふるさと」などは、今でも広く歌い継がれている。「ふるさと」の作曲者として正式に認定されたのは、彼の死後25年以上経った昭和42年のことであるといわれている。

天国と地獄 / J.オッフェンバック

オッフェンバックは、ドイツ出身のフランスで活躍した、ロマン派の作曲家で、100曲を超える軽快なおペレッタ(喜歌劇)を書き残した。喜歌劇「天国と地獄(1858)」の原題は、「地獄のオルフェ」であり、ギリシャ神話の「オルフェウスとエウリディーチェ」の悲恋物語をパロディー化した作品である。この軽妙に乱舞する「フレンチ・カンカン」は、どこでも耳にするギャロップ(駆け足行進)で、序曲の最後に、また劇中の最後にも踊られる。

symphony 交響曲第9番 二短調「合唱付き」作品125 / L.v.ベートーヴェン No.9 Ludwig van Beethoven 《SYMPHONY No.9》d-minor Op.125

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)は、生涯で9つの交響曲を残すとされるが、この9番ほど壮大で荘厳な交響曲は見当たらない。これこそ彼の最大傑作のひとつであり、ロマン派以降の作曲家に大きな影響を与えた。この第9番の交響曲における最大の特徴は、第4楽章で4名の独唱者と大合唱を用いていることである。交響曲とは、本来オーケストラのためのソナタであるとされるが、声楽を加えることで、さらに豊かなダイナミクスを実現し、壮大な印象のものとなった。また、シラー「歓喜に寄す」の歌詞を用いた旋律が主題として使用され、これを循環的に挿入することで全曲の思想を統一させる効果を示している。

第1楽章 Allegro ma non troppo, un poco maestoso
(快活だがはなはだしくなく、少し威厳を持って)

ソナタ形式であるが、再現部でクライマックスを迎えることや、第2主題の転調において特徴を確認することができ、型破りなソナタ形式であるといえるだろう。この第2主題は、4楽章に登場する「歓喜」の同期を暗示しており、穏やかで温かな印象を受ける。

また、この楽章の冒頭は「空虚5度」によって開始される。調性重力感のない宇宙的広がりを感じさせ、第1主題の断片が次第に近づくようなドラマティックさを演出している。

第3楽章 Adagio molto e cantabile
(とても穏やかに、そして歌うように)

緩徐楽章で2つの主題が交互に現れる変奏曲と見られるが、展開部のないソナタ形式とも見ることができ、議論の分かれるところである。まず、温かくかつ純粋な叙情的な主題が示される。それに続き同型反復的な、温かくも動きを持った2つ目の主題が現れる。この2つの旋律は、いずれも静かな美しさを十分に感じさせ、甘美ながら気高い印象を与える。

第2楽章 Molto Vivace
(とても活発に)

複合三部形式のスケルツォ楽章である。第1主題の強烈なモチーフが印象的で、これを力強く表現するため、ティンパニを効果的に使用している。フーガのようにこの主題は展開し、第2主題を導き出すが、ここでも転調に特徴がある。

トリオの主題は、「歓喜」の動機に近似したもので、穏やかさや温かさを醸し出し、スケルツォ主部とは印象を異にしている。

第4楽章 Presto
(急速に)

まずPresto(急速に)で開始されるが、次々に場面転換がなされていく。第1~3楽章の主題が回想されるが、それぞれ低弦のレスタティーボによって中断される。これまでの旋律を否定するような力強さを感じさせる。その後この交響曲の主役である「歓喜の歌」が、哲学的な印象を持った低弦の演奏で始まり、次第に厚みを増し、歓喜の姿を示すのである。これは独唱、合唱によってドラマティックかつ壮大に繰り返すクライマックスを迎え、トルコマーチ、コラールなどを得て絢爛絶無に終曲していくのである。

プロフィール



指揮
星野 勝彦

新潟県小千谷市出身。2001年洗足学園音楽大学卒業。コントラバスを井戸田善之氏に師事、P.シミードル氏、レオン・シュピーラー氏による室内楽講座を受講。2010年上越教育大学大学院修了。作曲法を後藤丹氏に師事、林紀人氏、神通英洋氏の指揮法講座を受講した。

2003年第39回長岡交響楽団定期演奏会においてクーセヴィツキー《コントラバス協奏曲》を共演。現在アンサンブルオピリー、新潟ARS NOVAにてコントラバスの演奏活動を行っている。

また作曲と指揮者としての活動も多岐にわたり、長岡市民音楽祭、長岡市花いっぱい音楽祭、長岡市フェニクス音楽祭、見附市アルカディア音楽祭、長岡市ミアモレプロジェクトなどに作曲作品を提供している。長岡市立劇場開館50周年記念演奏会ではオペラ《長岡物語》を作曲・指揮している。

これまでに花いっぱい音楽祭管弦楽団、ラ・フォル・ジュルネ新潟2016スペシャル市民オーケストラやフンパーディンク《ヘンゼルとグレーテル》、ロッシーニ《なりゆき泥棒》などのオペラを指揮している。

現在、長岡交響楽団副指揮者、新潟市北区フィルハーモニー管弦楽団指揮者を務めている。



コンサートマスター
大関 博明

1972年国立音楽大学を卒業。在学中にオランダ、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団への入団試験に合格し、卒業後直ちに入団。その後1975年ドイツ、マンハイム州立歌劇場管弦楽団、1976年にバンベルク交響楽団に入団。1979年群馬交響楽団にコンサートマスターとして招かれ帰国。1980年に始まった草津国際音楽フェスティバルに第1回から参加し、多くの世界的アーティストと共演する。1987年群馬交響楽団を退団し、同年より母校国立音楽大学で教鞭を執り、2015年まで同大学教授。2015年まで6年間、東京藝術大学講師。豊田市ジュニアオーケストラ創立以来2017年まで指導者、紀尾井ホール室内管弦楽団団友。



全体合唱指導・
バリトン
上野 正人

東京藝術大学声楽科卒業。同大学院修士課程オペラ科修了。

ドイツ・ライプツヒ音楽演劇大学大学院芸術研究課程声楽専攻修了。

ドイツ国家演奏家資格（音楽学博士同等）取得。

2001年には文部科学省在外研究員として再度ドイツ・デトモルトへ留学し研鑽を積んでいる。

これまでに、オペラ《メデ》(ミヨー)クレオン王(パリのシャトレ劇場)、オペラ《てかがみ》竹田勇一、オペラ《奴奈川姫》

大田主命・八重事代主、JS.バッハ《マタイ受難曲》バス独唱などがあり、2005年には台湾・長榮交響楽団ベートーヴェン(第九交響曲)演奏会(台北市・ナショナルコンサートホール)、ミュンヘンバロックアンサンブル演奏会JS.バッハ《クリスマス・オラトリオ》(ドイツ・グラウフィング)などに出演し、高い評価を得ている。上越教育大学副学長・大学院教授。



ソプラノ
鈴木 愛美

長岡市出身。国立音楽大学卒業、同大学院及び新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁新進芸術家海外研修員としてミラノで研鑽を積み、野村財団奨学生、ローム・ミュージックファンデーション助成にて、ウィーン国立音楽大学大学院を最優秀成績で修了。シェーンブルン宮殿劇場、楽友協会演奏会、新国立劇場オペラ等に出演。飯守泰次郎指揮「天地創造」、宮本文昭指揮「カルミナ・ブラーナ」、バスカルヴェロ指揮フォーレ「レクイエム」、大友直人・現田茂夫指揮「海道東征」等に出演。秋川雅史氏とのコンサート共演やラフォルジュルネ新潟等出演。14、19年に長岡リリックホールにてソロリサイタルを開催。19年1stアルバム「ウィーンわが夢の街」をリリース。来月12月に2ndアルバム「日本の歌」をリリース予定。文部科学大臣賞、朝日新聞社賞受賞。新潟大学音楽科准教授。二期会会員。

WEB <https://suzukimanami.com>



アルト
中森 千春

新潟中央高等学校音楽科、新潟大学教育人間科学部 芸術環境創造課程 音楽表現コース卒業。上越教育大学大学院 学校教育研究科 教科・領域教育専攻芸術系（音楽）コース修了。

コンサートソリストとして、モーツァルト「レクイエム」「荘厳ミサ」、ベートーヴェン「交響曲第九番」等のアルトソロをはじめ、県内各地のコンサートに出演。また、合唱指導やヴォイストレーニングなど、演奏者・指導者として活動している。

歌曲研究会「新潟シュペルティアード」メンバー。新潟日報カルチャースクール上越教室講師（声楽・ヴォイストレーニング・抒情歌・水引細工）。合唱団「雪ん子」指揮・指導。女声合唱団「コロ・カンタービレ」指導。

Studio ROSINA（音楽絵屋ろじな工房・ロジーナ音楽教室）主宰。柏崎市出身。現在、上越市在住。



テノール
洞口 圭

国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業。武蔵野音楽大学大学院音楽研究科修士課程声楽専攻修了。竹内友子、疋田生次郎、田口興輔、加茂下稔、エンツォ・コンサーマ、ルイーザ・マリアーノの各氏に師事。大学院在学中に武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会にソリストとして出演。2004年より3年間イタリア・ジェノヴァに留学。

イタリアではサンタ・マルゲリータ・リグレ・オペラフェスティバルの他、多数のコンサートに出演し、好評を博す。帰国後は、「チャペルコンサート」、「ふるさと新潟の童謡」、「花いっぱい音楽祭」、「郷土にいがたの響き 慶祝コンサート」、学校への芸術家等派遣事業などのコンサート活動をしながら後進の指導に当たっている。新潟青陵短期大学非常勤講師。

合唱指導(女声)

杵淵直子

国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業。
声楽を小野邦代、益田道昭、(故)堀井マサ子、寺川啓子、(故)中澤桂、腰塚賢二各氏に師事。指揮法、声楽を樋本英一氏に師事。
現在はカルチャープラザ長岡「大人の声楽」、「懐かしい愛唱歌」の講師を務める他、「カラビナ・アソカ」、「コール・アソカ」「越路幸齢者教室楽しく歌おう」「マティナル・ソレイユ」、「雪割草」の合唱指導を行う傍ら演奏活動を行い、自宅にて音楽教室を主宰し後進の指導にあたる。

合唱ピアノ

金子陽子

桐朋女子高校音楽科を経て同学園大学音楽学部ピアノ専攻卒業。
これまでに内宮弘子、金澤希子、久保山祐子の各氏に師事。
リックホール開館記念ガラコンサート、三善晃プロデュース公演「響き合うピアノ」、アオーレオープニング記念ガラコンサート等、ソロ、室内楽など多数の演奏会に出演。
中澤桂、大関博明、久保田巧、川島成道氏他多くの演奏家と共演。
コンチェルトのソリストもつとめる他、学校でのアウトリーチコンサートも多く行っている。
オペラ、合唱、音楽コンクールの伴奏ピアニストとしても活躍するなど多方面で演奏活動を行う。

合唱ピアノ

永井典子

武蔵野音楽大学器楽学科卒業。東京音楽療法専門学校卒業。
ドイツ・マンハイム国立音楽芸術大学総長ルドフ・マイスター氏のマスタークラスをこれまでに14回受講。
高見慶子、柳慈、福岡敏彦、奥田操、若林陽子の各氏に師事。
ソロや伴奏、アンサンブル等の演奏と、自宅教室での指導を行い、未就学児から高齢者まで対象の年齢を問わず幅広い音楽活動をしている。
長岡音楽指導者の会会員。

弦楽講座受講生

指導講師：アンサンブル・オピリー（佐々木将公・阿部智子・加野晶子・片野大輔）

(五十音順)

ヴァイオリンⅠ 多田里恵・西三香子・山崎信之・山崎祐子・山下成子・矢島秀人
ヴァイオリンⅡ 佐藤宏子・田中美保・葦澤頼子・伴登美枝・和田律子
ヴィオラ 水澤真也
チェロ 安部永子・内田幸男・中田恵子・野本幸範・藤井多佳子・渡邊泰彦

フルート講座受講生

指導講師：茨木理恵・武藤千明

(五十音順)

青柳忠浩・今井信一・河内浩美・久保宏司・坂内いずみ・佐藤初美・関春美・高野紗莉・土田香
遠山礼子・廣川紀子・堀井晃子・結城智美

合唱指導(女声)

佐藤晶子

武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業。昨秋、オペラ「長岡物語」つね姫役にて出演し好評を得る。ソロ・リサイタル、ワンコインチャリティコンサートを開催。長岡リックホール開館20年記念事業オペラ「てかがみ」(レイチェル役)、同館25周年記念事業オペラの魅力「トスカ」(ダイジェスト版)にトスカ役にて出演。その他県内外の演奏会、オペラ公演、式典等に数多く出演。現在、演奏活動の他にAKIKO音楽教室を主宰し後進の指導にあたる。新潟中央短期大学非常勤講師。長岡市アウトリーチ夢づくり出前体験教室講師。

合唱ピアノ

久住奈々

洗足学園音楽大学ピアノ科卒業。これまでに住吉俱子、長与咲子、ミハイル・カンディンスキーの各氏に師事。大阪国際音楽コンクール第3位(1位該当者なし)。エリーゼ音楽祭金賞受賞。
現在後進の指導にあたる傍ら、演奏活動、伴奏ピアニストとして活躍。

合唱指導(男声)

鈴木至門

八王子市出身。国立音楽大学声楽科卒業。
日本オペラ振興会オペラ歌手育成部にて研鑽を積む。藤原歌劇団を中心に活動。
大学内合唱サークル、くにたちカンマーコールのコンサートマスター。
市民合唱団の指導に携わる。結婚を機に長岡に移住。
県内にて数多くのオペラ、ミュージカルの主演を務め、喝采を浴びている。
県内各地の合唱指導、小中学校のコーラス指導も情熱を持って行っている。
指導者としての評価も高い。北陸学園非常勤講師。

合唱ピアノ

小山 恵

国立音楽大学附属音楽高等学校ピアノ科、国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。
東京、長岡において数回ジョイントコンサート並びにソロリサイタルを開く。
第26、31、35回の長岡交響楽団定期演奏会ではそれぞれ、ベートーヴェンの三重協奏曲、合唱幻想曲、グリーグのピアノ協奏曲を共演。
近年2台ピアノや連弾の演奏にも取り組んでいる。
後進の指導に当たる傍ら、長岡混声合唱団の伴奏の他、多方面で伴奏ピアニストとして活躍。
新潟県音楽コンクールピアノ部門審査員。



長岡第九オーケストラ2024

(五十音順)

- ヴァイオリンI 大関博明・岩橋政宏・岡本孝子・小宮山佳子・今野友一・佐々木将公・清水俳二・鈴木智恵
中野円佳・細川陽子・松村牧子・村山由美子
- ヴァイオリンII 井口 歩・小暮尚美・佐藤陽子・鈴木真紀・高橋百合・中村風子・西 三香子・藤田旬葉
村山 泉・山岸真夫・山下成子・渡邊久美子
- ヴィオラ 石井 泉・伊藤咲希・加野晶子・高木佑子・戸川聖子・長尾 幸・野邊栞乃・水澤真也
村井宏明・渡辺みほ
- チェロ 安部信之介・大原喜代美・笠原祐樹・片野大輔・菅原京子・瀬高伸一郎・高橋勇弥・竹内幸美
中田恵子・福島ひろみ・藤井多佳子・山崎淳哉・渡辺正英
- コントラバス 池田 怜・富岡 章・別森 麗・山本直恵
- フルート 齊藤孝久・田村 仁・堀井康子
- オーボエ 池田 香・星野裕子
- クラリネット 齊藤直美・高橋正紀・高橋光江
- ファゴット 佐野礼奈・長尾彰久・丸田奈央・渡邊ほのか
- ホルン 金子希世子・北村妙子・篠田正弘・中谷内亮信・福富雅彦・村山信行
- トランペット 後藤武俊・高頭幸充・野水秀馬
- トロンボーン 風間 豊・久保貴哉・佐藤浩司
- 打楽器 小濱史頌・倉品光希・藤澤紀章・米岡修一郎

長岡第九コーラス2024

(五十音順)

- ソプラノ 磯部秀子・板谷梨世・大橋純子・小湊理恵・小野佳子・小畑桂子・恩田倫子・加藤裕里恵
金子珠の・郷 久美子・小島敏江・小嶋直子・後藤紀子・小林聡子・小林智子・近藤真弓
笹尾八重子・真貝栄子・関 幸子・高橋里美・土田峰子・永見街子・蕨沢千枝子・根津尚子
野上しのぶ・長谷川美和・藤田頼子・星野貴子・星野美奈子・丸山恵子・森田靖子・八木 遥
山内愛子・吉澤可南
- アルト 安部永子・池田りえ子・生駒光子・伊藤重美・牛木孝子・大淵弘子・小川知子・風間徹子
片野 愛・北谷由規・木村千津子・久保久美・後藤秀子・小林由香・櫻井順子・笹川幸絵
下田清美・杉山真沙子・鈴木和枝・高橋紀子・田口順子・田中美保・田村京子・塚田篤子
寺本朝子・直江真弓・中川光子・中澤峯子・中島康子・中林圭子・中村佳美・南波光子
西脇美智子・林 多美子・原田ひとみ・廣川友子・本間暁美・八木直子・八木雅恵・山崎恵子
山本綾子・吉田 巖・米山優子・渡邊和恵
- テノール 大花克浩・小野島佳伸・桑原直道・小林 聡・関矢秀一・所谷直生・美濃谷秀夫・村山敦夫
山崎俊一・鷲頭和彦
- バス 江口道夫・監物春夫・須戸圭介・関 耕一朗・田村敏宏・林 勝彦・藤田芳雄・藤山正行
丸山一典・丸山幸夫・三鍋 正・村上能規



予
告

・—— 第61回 ——
長岡市民音楽祭

開催日 令和7年11月9日④

テーマ 「邦楽」

どうぞご期待ください！